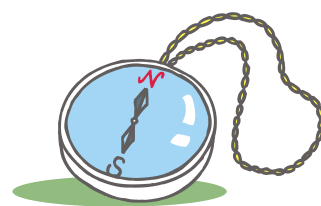


羅 針 盤



第 7 号 令和8年5月25日（月）

◆ 稲が実る場所

広大な土地の見渡す一面に「田んぼ」が広がっていたとして、次のいずれの場所にあった稲が最も実ることとなるでしょうか。一つは、川の近く、次に、農家の家の近く、そして、高い鉄塔の近く、最後に、田んぼの真ん中では、どこなのでしょう。例えば、一つ目の川の近くであれば、水が豊富にあるからきっと豊作になると考えることができるでしょう。しかし、違う見方をすれば、川の近くは、水が多すぎて根っこが腐ってしまうから稲はあまり育たないのではと考える人もいるかもしれません。次に、二つ目の農家の近くではと考えた人は、世話をよくしてもらえるからといった理由からかもしれませんが、違った見方では、世話を覚えてもらいすぎるから、過保護になってしまって稲は育たないと思う人もいることでしょう。だからこそ、ほっておかれる日当たりの良い4番目の田んぼの真ん中が、稲が一番育つと考える人もいるかと思います。見方や捉え方、考え方が違えば、同じ回答であったとしてもその回答を選んだ内容には違いがあったりするものです。正解はどれでもなく、どれもが正解ということです。学習活動を進めていくうえで、大切なこと、それは、正解となる答えを選び出すのではなく、「なぜ」その回答を導き出したのかといった理由を説明できることがとても重要なことであり、また、それぞれが導き出した回答の説明にしっかりと耳を傾け、納得できるものかどうかを一人ひとりが考える時間を持つことが大事なことはずです。自分自身がこれまで得てきた知識を整理し、どのようにすれば分かりやすく伝えることができるのか、それこそがコミュニケーションの原点ではないかと思えます。他者に伝える、あるいは、教えることで、自分の学びを再確認し、実は、伝え、教えることを通じて、新しい発見に気づく。また、他者の説明を聞き、理解を深めることで、自ら新たな発見に気づくといった場面に合うはず。新たな「気づき」が探究心となって、学びあいの学習（協同学習）となることに、とても大きな意義があります。日常の学習活動でも、「主体的で、対話的で、深い学び」といったことが大事にされているのには、こういった理由があるからです。さて、この問題ですが、理科的にいうと、正解は、高い鉄塔の近くとなるそうです。何故なのでしょう。高い鉄塔の近くでは、いったい何が起きているのでしょうか。自然現象で起こりやすいことがあります。雨が降った時には、雷も発生することがあります。高い鉄塔の近くには、雷が落ちやすいこと、それが大きな原因となっているそうです。雷は、空気中の窒素を雨に溶け込ませ



る力があります。その溶け込んだ雨水は、土に浸透しますが、この水に溶けた成分こそが、植物を育てるのに適したとても良い肥料に変化するというわけです。したがって、稲の成長に役立ち、鉄塔の周りは豊作となるそうです。昔の人は、そういったことをよく知っていました。だから、豊作を神様に祈るときには、しめ縄と白い紙をギザギザに切ったものを奉納します。これは、しめ縄を雨雲。ギザギザに切った白い紙は、紙垂（しで）と言って、稲妻を表しています。雨と稲妻がやってきて、作物を豊作にしてほしいといった願いを込めたわけです。日々の学習活動においては、「探究心」を忘れずに取り組んでもらいたいと思えます。